

麻績村の教育方針に関する研究検討委員会「第13回子育て支援部会」議事録

日時 平成30年7月5日(木) 午後3:30～

場所 麻績村地域交流センター 2F 第3,4研修室

参加者 ・教育委員 塚原明水委員 ・教育委員 坂野かほり委員
・子育て支援担当保健師 升田久美子委員
・筑北中学校特別支援コーディネーター 峯村学委員
・麻績小学校特別支援コーディネーター 田中真由美委員
・麻績保育園保育士 滝澤玲子委員 ・住民課長 森山正一委員
・ひだまり担当職員 清水智香子委員 ・教育長 飯森力委員(欠席)
・子育て支援コーディネーター 塩家正和委員 ・教育委員会職員 尾和正行委員

傍聴者 1名

事務局 : 定刻となりました。これより麻績村の教育方針に関する研究検討委員会、第13回子育て支援部会を始めさせていただきます。始めに部会長より挨拶をいただきます。お願いいたします。

委員 : 天気の変化が激しく、体調管理がなかなか難しいと思います。ぜひ、お体を気を付けていただければと思います。今回は、前回に引き続き「キッズサポートカードについて」の検討になります。先生方が記入しやすく使いやすい形式にできればと考えておりますので、忌憚のないご意見をいただきたいと思ます。

事務局 : それでは、議事に入ります。議事の進行につきましては、部会長お願いいたします。

委員 : (1) 会議録の確認についてお願いします。

事務局 : 会議録の確認につきまして、事前に前回会議の会議録を配布させていただいております。公表するにあたりまして、個人が特定される情報を伏せさせていただき、ホームページで公表していきたいと思ます。内容につきまして、問題等がございましたら事務局までご連絡いただき、ご指摘いただいた部分を調整した後に近日中に公表していきたいと思ますので、よろしくお願いいたします。

委員 : 会議録について、何かお気づきの点がございましたら事務局までお知らせいただきたいと思ます。それでは、(2) 今年度教育相談の現状についてということで4月～6月までについて事務局から説明をお願いします。

事務局 : 4月～6月までの子育て・教育相談についてになります。相談の実績を積み重

ねていき、将来的にセンター化に繋げていければと考えております。資料から抜けてしまっておりますが、「ひだまり広場」と合わせて「あそびの教室」にも参加させていただいております。1番上が「ひだまり広場」、「あそびの教室」、「麻績保育園」、「麻績小学校」、「筑北中学校」と時系列になっております。今後は、この先に「卒業生」を見据えた教育支援体制を構築していきたいと考えております。現在は、保健師と子育て支援コーディネーターで関係機関との連携を取っております。その中で、こういった機関と繋がっているのかをご説明させていただきます。まず、要保護児童対策協議会です。その次に「あるふ」があります。その他に、松本にある中間教室のような施設とも繋がりをもっています。「サポート会議」ということで、保育園・小学校・中学校で行っております。第1回目につきましては、保育園、中学校が終わっております。7月11日に小学校で第1回目のサポート会議が行われる予定となっております。「各機関ケース会議」にも出させていただきます。各関係機関等と関わりながら教育相談を行っているところです。

相談件数としまして、私が関わった件数は、3ヶ月で5件になります。相談の関わり方としましては、相談内容を聞き各機関に繋げるといった方法で、場合によってコーディネーターとして会議に関わる部分もあります。7月からこの5件の相談について見守っていき、新しい相談等がありましたら各機関に繋げて連携を取っていきたいと考えております。

委員：何かご意見等ございましたらお願いします。

委員：ひだまり広場についてですが、コーディネーターに入っただいて、子どもたちも段々慣れてきました。相談した方は「相談したらすぐに繋げてくれた」と喜んでおりました。ただ、まだ「相談窓口」として認識されていないように感じますので、周知をしていき、保護者の方が気軽に相談できるような環境になるよう信頼関係を築いていきたいと思っております。

委員：「相談する」ということは信頼関係ができていないとなかなかできないので、難しいところもあると思っております。

委員：もう1点、保健師さんの育児相談を第1、第3水曜日に定期的にするようになりました。それも定着してきておりますので、繋ぎやすくなっていると思っております。

事務局：1点訂正いたします。表の真ん中の「保育士」ですが、「保健師」の間違えです。訂正をお願いします。

委員：教育相談の現状について、その他にご意見等ございますか。無いようですので、先に進みます。(3)キッズサポートカードについてになります。今回は、素案を見ていただき、検討していただきたいと思っております。それでは、事務局説明をお願いします。

事務局：キッズサポートカードについて説明させていただきます。1枚目は「個別の支援計画」になります。これを基に生涯にわたって見ていくことになると思います。2枚目が「個別の指導計画」のようなものになります。「個別の支援計画」の後ろに「個別の指導計画」が毎年重なって増えていき、子どもの成長を見ていく形を考えて作成いたしました。

「個別の支援計画」についてですが、氏名・性別・生年月日・年齢があり、その下に保護者の氏名・続柄・住所・電話番号があります。家族構成の中には前回、「続柄はあった方がいい」ということでしたので、続柄を入れさせていただいております。手帳については、身体障害と療育それぞれあり、交付年月日を書き載せていただきました。その下を「生育歴」としてまとめさせていただき、病院名・診断名・服薬の有無・発作等の有無、また訓練等を受けていればその様子、そして各種検査の検査名・検査日・検査結果を記入するようになっていきます。その下の特徴・特性というところでは、就学前・小学校・中学校で書いていただき、最後に保護者の了承をいただいたものを個別の支援計画にしたかどうかと考えると、作成いたしました。

2枚目の「個別の指導計画」ですが、こちらについては「個別の支援計画」に細かな情報がありますので、名前等を記入していただき、課題と支援の手立てについては、基本的な生活習慣・集団行動対人関係・学習・運動・その他の5つの項目があり、それぞれに現在の様子・長期目標・短期目標・指導場面・手立て・変容があります。短期目標に対しての手立てや変容を年間を通して見ていくとその子の変化が分かってくるのではないかと考え、作成いたしました。色々な目線で見えていただきご意見いただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

委員：それでは「個別の支援計画」についてのご意見をいただきたいと思っております。

委員：私の方でも支援計画について調べさせていただきました。県の要綱を見ますと、支援計画の中にそれまでの支援の記録があるようです。その他に「ネットワーク」についても書かれていました。他の市の様式になりますが、今回示されたものの中に支援会議の経過・支援内容の評価また支援マップのようなものが入れば完璧になるのではないかと考えました。

委員：その他にご意見いただけますか。

委員：生育歴の中の病院名や診断名はどの段階のものを記入するのでしょうか。

事務局：病院等はあまり替わることが無いと考えていましたが、いかがですか。

委員：あまりないとは思いますが、転勤等の理由で替わることはあると思っております。

委員：医師が変わったので、違う病院に移るといったケースはあります。

事務局：その子がどういった環境で育ってきたのかということを知るためにも何件か記入できる方がいいと思いましたが、どうですか。

- 委員 : 診断名が下りたところで手帳ということになるので、いくつか記入できた方がいいと思います。
- 委員 : それぞれが2回分記入できるようになるといいと思います。
- 委員 : 初回作成者という部分についても、診断等によってその都度記入する方が出てくると思いますので、いつ記入したのかということが分かるように日付を記入できるようにして、「平成☆☆年△月□日、作成者〇〇〇〇」とすればいいと思います。
- 委員 : 保護者の確認についても就学前、小学校、中学校それぞれの時に確認していただくことが必要だと思います。ですので、保護者の確認欄もいくつか必要になると思います。
- 事務局 : 保護者の確認はその都度必要になると思います。先ほどのご意見から病院名や主治医、診断名については2つ記入できるようにし、就学前に1度保護者の承認を得て、小学校や中学校においても承認を得ていく必要があるということですが、関連してご意見いただけますか。
- 委員 : スペース的に難しいかもしれませんが、就学前として就園前と保育園に分けてもらった方がいいと思います。
- 事務局 : 就園前を住民課、就学前が保育園、そして小学校、中学校と作成していただくことになると思います。それぞれでデータで作成していただいたものをコーディネーターが取りまとめていくことになると思います。例として、住民課で作成したものを保育園に渡し、保育園で付け足すことがあれば変えていただき、保護者の承認をいただき、またデータでもらったものを小学校に渡して、保護者にまた承認していただくという形になると思います。
- 委員 : 長期目標が2枚目にあるのでいいのかもしれませんが、保護者の願いを記入する箇所があった方がいいと思います。
- 委員 : 特徴・特性の欄の右に保護者が承認する欄があれば、その時の承認をそれぞれ記入することができると思います。
- 事務局 : 保護者の願いは必要だと思います。
- 委員 : 本人の願いというのはどうしますか。
- 事務局 : 本人の願いを記入しているところはありますが、なかなか書くのが難しいです。今までの話をまとめますと片面に入りきらなくなると思いますので、両面になると思います。そうすれば、保護者の願いや本人の願いの欄を入れていけると思います。
- 委員 : 各種検査の欄が4行ありますが、2行にすれば片面で収まりませんか。
- 事務局 : 個別の支援計画を就園前・就学前・小学校・中学校それぞれで更新していくとするならば片面で収めることができると思います。過去のものが必要なら過去のデータを確認することはできます。

- 委員 : 専門の先生が過去の検査を知る時に、1枚で分かる方がいいと思いますので、検査の欄はこのくらいあった方がいいと思います。検査場所・検査者があると検査の状況が分かるのであった方がいいと思います。
- 事務局 : 検査名に検査場所、検査者の項目はあった方がいいですね。
- 委員 : 「検査名・検査者・検査場所」と項目をしていただければいいと思います。
- 事務局 : 各種検査の項目と検査名の項目は一緒だと思いますので、各種検査を抜いて「検査名・検査者・検査場所」の欄を入れたいと思います。
- 委員 : 検査結果の欄に「見立て」とありますが、その辺についてご意見いただけますか。
- 委員 : 「見立て」については、検査の結果があつてそれに対しての見立てということですので、学校で見立てをするということはできないと思います。見立てをしていただいて、それに向けて学校の方では動いていくということになると思います。
- 事務局 : 今までの意見をまとめますと、支援会議の記録、内容、ネットワークの欄が必要であるということ。そして保護者の願い、合わせて本人の願いもあれば記入できるようにということ。生育歴の中では、病院名、主治医、診断名、診断日のところに線を入れて2件記入できるようにし、検査のところでは、検査名・検査者・検査場所が必要とのこと。また、検査の欄は、現状のまま4つ書けるようにしておく。特徴・特性のところでは、就学前のところに就園前の項目を入れて4つの欄にするということ。また、保護者の確認を就園前、保育園に入る時、小学校に入る時、中学校に入る時の最低4回は保護者の承認をもらう必要があるような形式にしていきたいと思います。その他にご意見ございますか。
- 委員 : 「ネットワーク」の必要性としては、「以前、こういう団体に関わりを持ってもらっていた」ということが分かるようにあると思いますので、「支援マップ」のようなものがいいと思います。
- 事務局 : 何歳の時にどういった団体に関わってもらったかということは必要だと思います。それが生育歴のところに入ってきて、何歳の時にどこに行き、どういう手立てをしたのかということが入ると分かりやすいと思います。ただ、支援マップのようにどういう流れか分かった方がいいとなれば、マップも必要だと思います。
- 委員 : その他にご意見ございますか。
- 委員 : 構成ですが、左の「生育歴」の欄が広すぎると思いますので、もう少し狭くしてもらえるといいと思います。
- 委員 : 「生育歴」という言葉についてですが、保護者としては「成長の記録」といった言葉の方がいいと思いました。
- 委員 : 生育歴というよりも、中身を見ますと検査結果や診断についてなので、「諸検

査」のような気がします。

委員：保護者としては「生育歴＝診断結果」とならないと思いますので、「成長の記録」という言葉であればいいのかと思います。

事務局：それでは、今までいただいた意見を様式の方に反映させて、また皆さんに見ていただきたいと思います。

委員：素案の検討ですので、再度修正したものを見ていただき検討していただきたいと思います。それでは、2枚目の「個別の指導計画」についてご意見をいただきたいと思います。

事務局：基本的には、就学前・就園前の子どもにつきましては、「基本的な生活習慣」についてのところが増えていくのではないかと思います。就学したとことで「学習」のところが増えていくのだと思います。「集団行動対人関係」や「運動」については全ての子どもに共通するところだと思います。項目やその他の内容についても皆さんの方でご意見がありましたらお願いいたします。

委員：長期目標・短期目標の欄についてですが、欄が縦長で書きにくいのではないかと思います。上に長期目標、下に短期目標にすると横長になるので書きやすくなると思いますが、いかがですか。

事務局：こちらのイメージとしては、いくつかの長期目標のプロットがあり、それに対する短期目標のプロットがあって、短期目標を達成するためにはどういう指導や手立てをし、それに対してどんな変容があるのかということを入記できるように考えて作成しましたが、実際に記入される先生方のご意見もいただけますか。

委員：横書きに記入するなら先ほど指摘いただいたようにした方が書きやすくなると思いますが、その他にご意見いただけますか。

委員：項の内容について、記入する子どもに対して内容を変更することはできるのでしょうか。その子どもの成長によって項に記入したい内容も変わってくることもあると思います。その場合は、「その他」の項を使えばいいのでしょうか。もう1点、今までにあった「入級の診断・判断」についての項目は必要なのかどうかと思いました。

委員：「成長の記録」の検査を少し減らして、そこに入級等の情報を入れるのはどうですか。

委員：保護者の方にも納得いただいて承認していただくものなので、そういう項目は載せてあった方がいいと思います。その他にご意見ございますか。

委員：記入するにあたり、項の内容に「具体的にどんな様子を記入するのか例を入れる」と記入する人が記入しやすいと思います。

委員：その他にご意見ございますか。よろしいでしょうか。それでは、再度（案）をお示しして検討していただきたいと思います。

事務局 : 1点お願いします。今後この部会としてキッズサポートカードの案を出していくことになると思いますが、事務局としてもいつ頃から運用ができるのか確認させていただきたいと思います。

委員 : ここで承諾されてもすぐに使用するという訳にはならないと思いますので、ご承知いただきたいと思います。それでは、(4) 次回検討事項について事務局をお願いします。

事務局 : 次回ですが、今回のご指摘を受け、修正してキッズサポートカードをお示ししたいと思いますが、合わせて時間がありましたら以前にお渡しした麻績村教育支援委員会のエントリーシート等についての検討をしていただきたいと考えております。エントリーシートの内容を見ていただきたいのですが、実態把握の中に「排泄」や「衣服の着脱」という項目があり、これを特別支援学級やLD等通級指導教室の判断について使うには難しいと考えております。

また、就学判断検討シートにつきましても、私個人の意見として項目が多く分かりにくい印象を受けました。私が以前関わっていたところでは「数値があり、その中で子どもの実態に合わせて判断」と3項目で分かりやすくなっておりました。医療機関では、まず数値を見て「この子については〇〇学級的である」という中で、担任から「〇〇学級的ではあるが、本人や保護者の願いがあるので△△学級にしたい」という2項目に合わせて判断をしておりました。

判断報告書の内容についても、もう少し簡潔で分かりやすいものにできればと考えております。あくまでも私個人の意見ですので、皆さんに見ていただいて「どういうものにしていった方がいいのか」次回お時間があればご意見をいただければと考えております。

委員 : それでは、その他に何かありましたらお願いします。よろしいでしょうか。それでは、次回の日程に移ります。

事務局 : 次回の日程につきましては、8月31日金曜日15時30分からこちらの会場で行う予定とさせていただきます。ここにいらっしやらない委員の方もおりますので第2希望を8月27日火曜日とさせていただきますが、特に変更が無い場合は8月31日金曜日15時30分から行いますので、よろしく願いいたします。

委員 : それでは、閉会をお願いします。

委員 : 以上で、麻績村の教育方針に関する研究検討委員会「第13回子育て支援部会」を閉会とさせていただきます。お疲れ様でした。